2018 年 7 月 26 日

経済レポート

グラフで見る関西経済（2018 年 7 月）

調査部　主任研究員　　塚田 裕昭

【今月の景気判断】

関西経済は緩やかに持ち直している。

項目	現状（ 7月）	前月
1．景気全般	緩やかに持ち直している	―
2．生産	横ばい圏で推移している	持ち直しの動きが見られる
3．雇用	改善している	―
4．賃金	緩やかに持ち直している	―
5．個人消費	持ち直しの動きが見られる	―
6．住宅投資	一時的に増加している	横ばい圏で推移している
7．設備投資	持ち直している	―
8．公共投資	横ばい圏で推移している	―
9．輸出入	輸出は増加基調、輸入は横ばい	―
10．金融	貸出は増加	―
11．倒産	倒産件数は減少	―

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（10.金融、11.倒産を除く）
前月のコメントが現状と同じ場合は－と表記

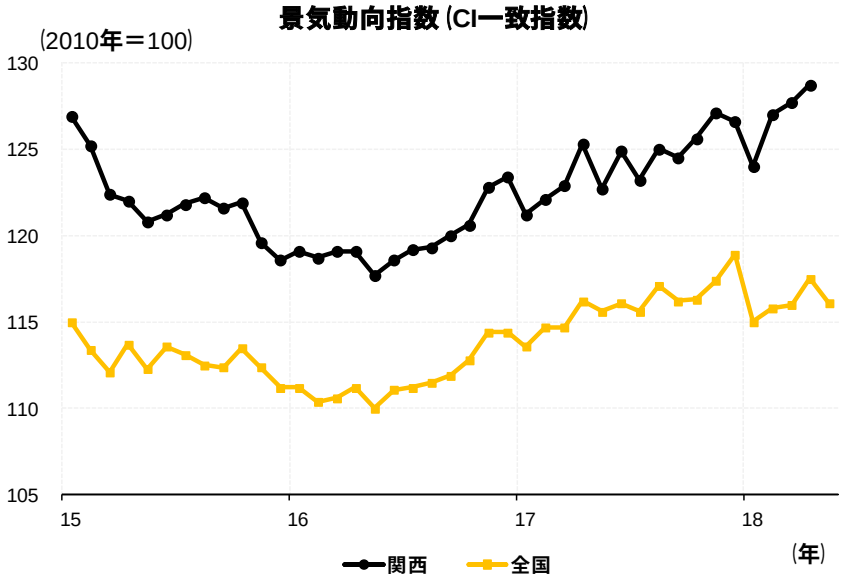
【今月のポイント】

- 5月の生産は、4月に機械類が大幅に増加した反動減が見られ、減少に転じたが、均して見ると横ばい圏で推移している。
- 5月の個人消費関連の指標は天候要因等もあって、前年比でのマイナスのものも多かったが、トレンドとしては「持ち直しの動き」に変化はない。
- 設備投資は、大幅増の計画となっているが、実績の動きは鈍い。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。
（お問い合わせ）調査部　TEL：03-6733-1070　E-mail：chosa-report@murc.jp

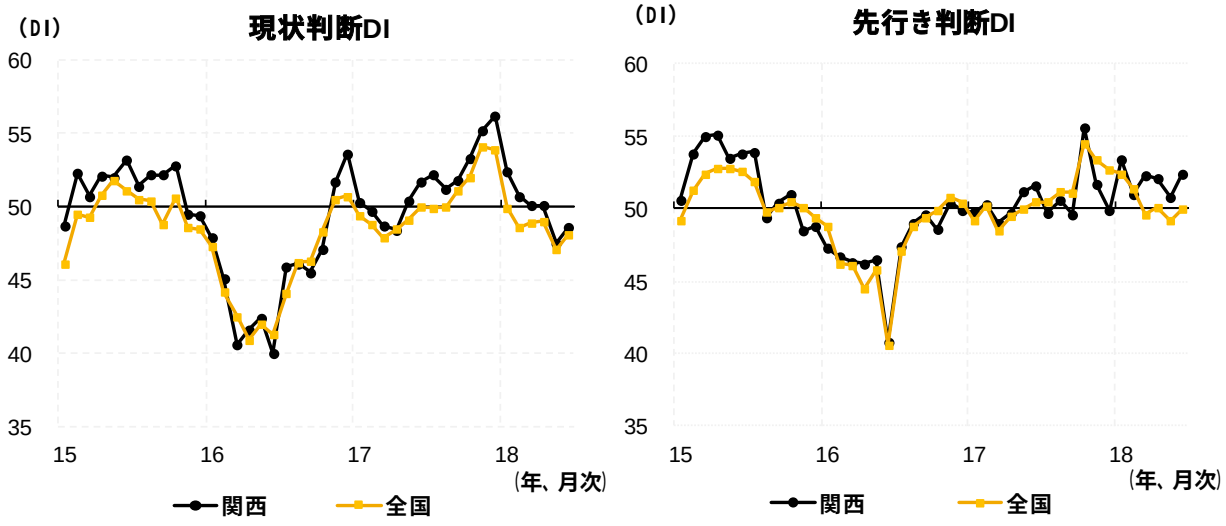
１．景気全般　～緩やかに持ち直している　（先行き：緩やかに持ち直し）

○4月の関西の**景気動向指数・ＣＩ一致指数**は前月差＋1.0ポイントの128.7と3ヶ月連続で上昇した。



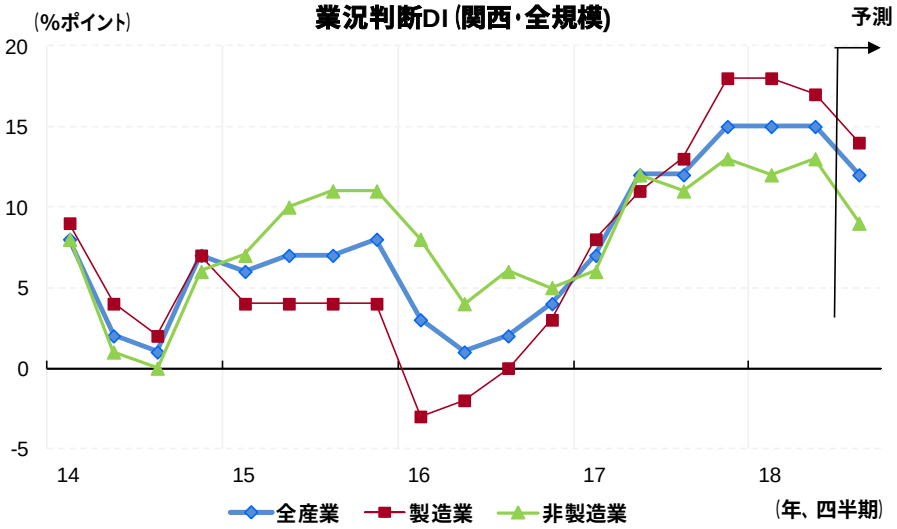
（出所）内閣府「景気動向指数」、大阪府「近畿地区景気動向指数の動き」

○**景気ウォッチャー調査**によると、6月の関西の**現状判断ＤＩ**（季節調整値）は前月差＋1.1の48.6と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。関西のウォッチャーの景況感は、昨年末がピークとなり、足下で弱い動きが続いている。**先行き判断ＤＩ**（季節調整値）は、同＋1.6ポイントの52.4と3ヶ月ぶりに上昇した。



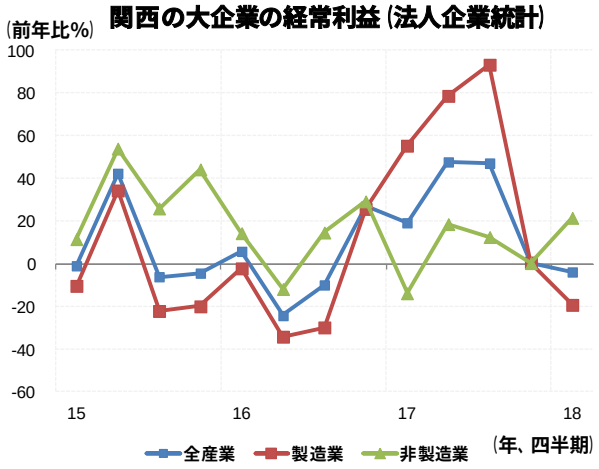
（注）　DIは季節調整値
（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」

○関西企業の景況感について**日銀短観6月調査**を見ると、**業況判断ＤＩ**は全産業(全規模)で＋15と前回3月調査と同水準となった。製造業（全規模）は＋17と3月調査より1ポイント悪化し、非製造業（全規模）は＋12と1ポイント改善した。先行きについては、全産業、製造業、非製造業共に悪化が見込まれている。

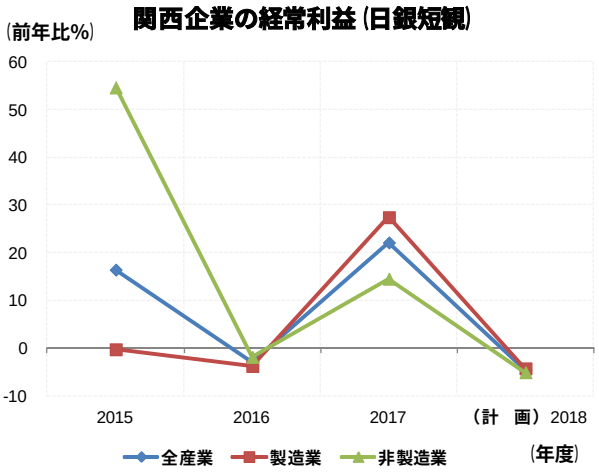


（出所）日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査（近畿地区）」

○関西企業の収益動向について**法人企業統計**を見ると、2018年1～3月期の**経常利益**（全産業）は、前年比－3.8%と6四半期ぶりに減少した。非製造業は同＋21.6%と4四半期連続で増加したが、製造業が同－19.2%と6四半期ぶりに減少した。**日銀短観6月調査**では、17年度の**経常利益**は全産業で同＋22.1%、製造業で同＋27.4%、非製造業で同＋14.5%となった。18年度は全産業で同－4.6%、製造業で同－4.3%、非製造業で同－5.1%と計画されているが、水準は高い。



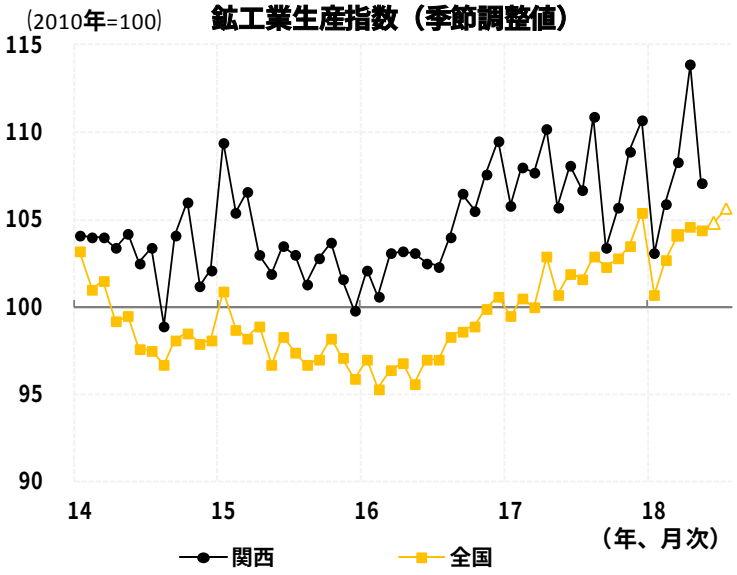
（注）資本金10億円以上の法人（除く金融・保険）
（出所）近畿財務局「法人企業統計調査」



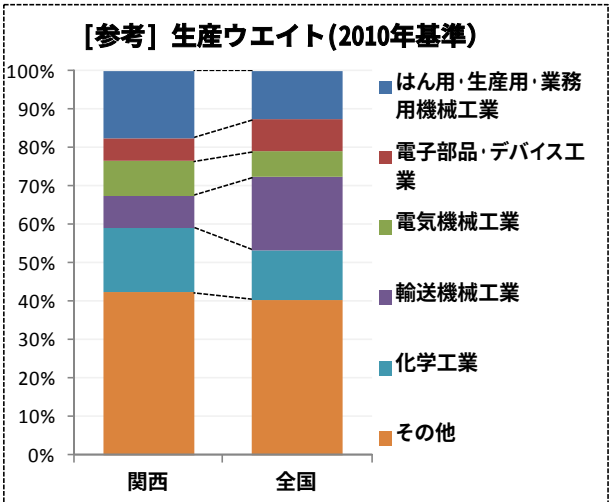
（出所）日本銀行大阪支店「短観」

２．生産　～横ばい圏で推移している　（先行き：緩やかに持ち直し）

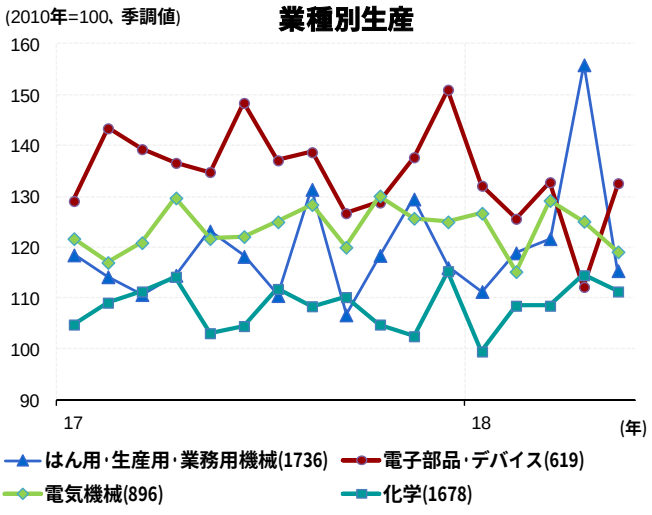
○5月の関西の**鉱工業生産**は、前月比－6.0%と4ヶ月ぶりに減少した。電子部品・デバイス、情報通信機械などが増加したが、4月に急増したはん用・生産用・業務用機械のほか、化学（除医薬品）、電気機械などが減少した。近畿地区の生産は均して見ると横ばい圏で推移している。



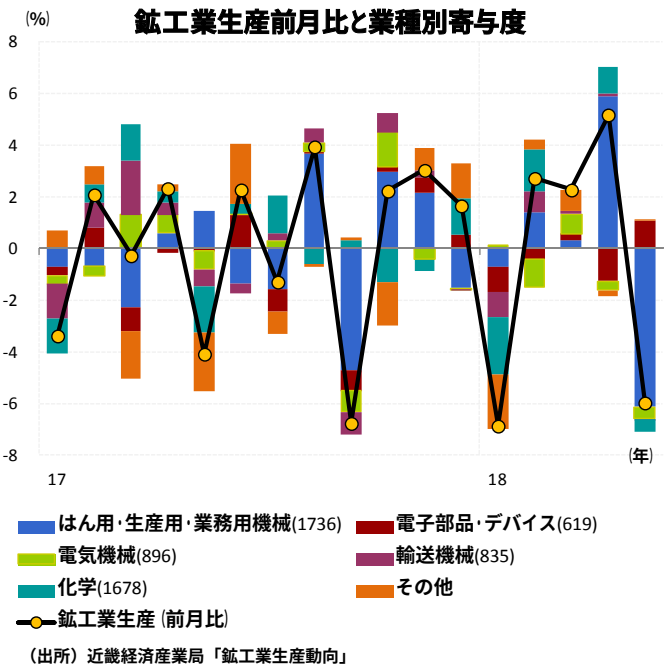
（注）生産（全国）の「△」は製造工業生産予測調査結果に基づく予測。
（出所）近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



（出所）経済産業省「鉱工業指数」
※関西は、全国に比べ輸送機械のウエイトが低く、はん用・生産用・業務用機械、化学、電機のウエイトが高い

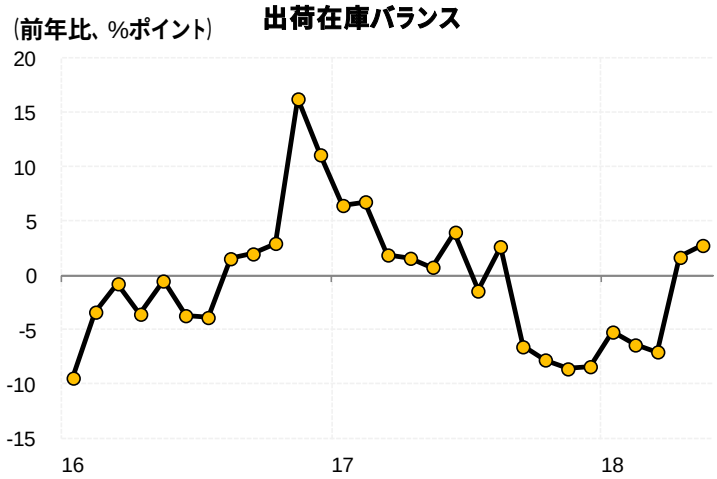


(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト（鉱工業＝10,000）
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」



（出所）近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

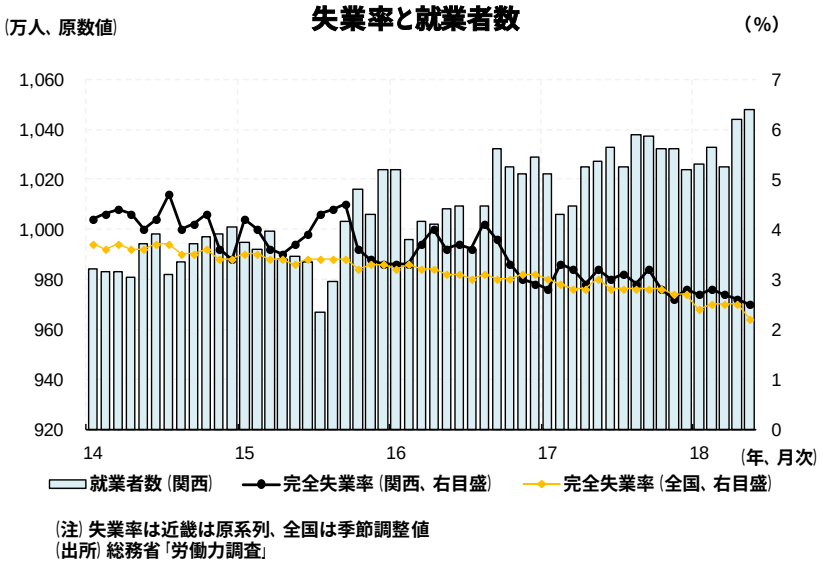
○出荷の伸びから在庫の伸びを引いた**出荷在庫バランス**（出荷の伸び－在庫の伸び）は、このところプラス圏で推移している。



（注）出荷在庫バランス＝出荷の伸び－在庫の伸び
（出所）近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

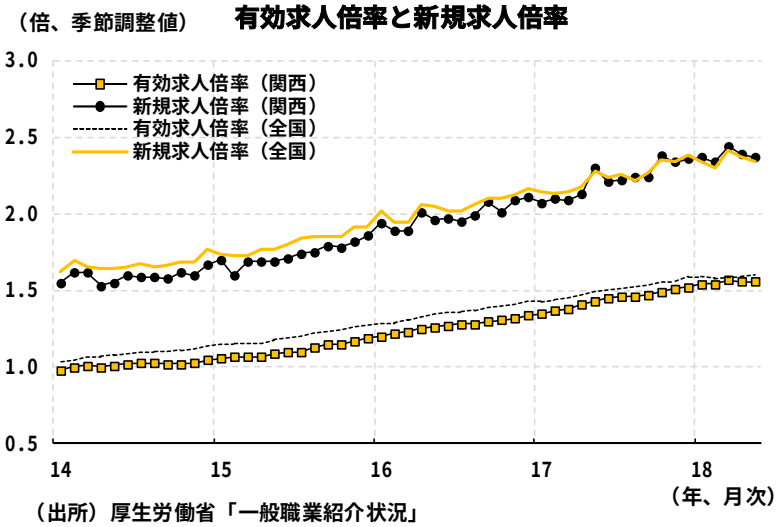
３．雇用　～改善している　（先行き：改善）

○5月の関西の**完全失業率**は前年差－0.7ポイントの2.5%となった。雇用者数は前年差19万人増加し、**就業者数**は同21万人増加、完全失業者数は同7万人減少した。



（注）失業率は近畿は原系列、全国は季節調整値
（出所）総務省「労働力調査」

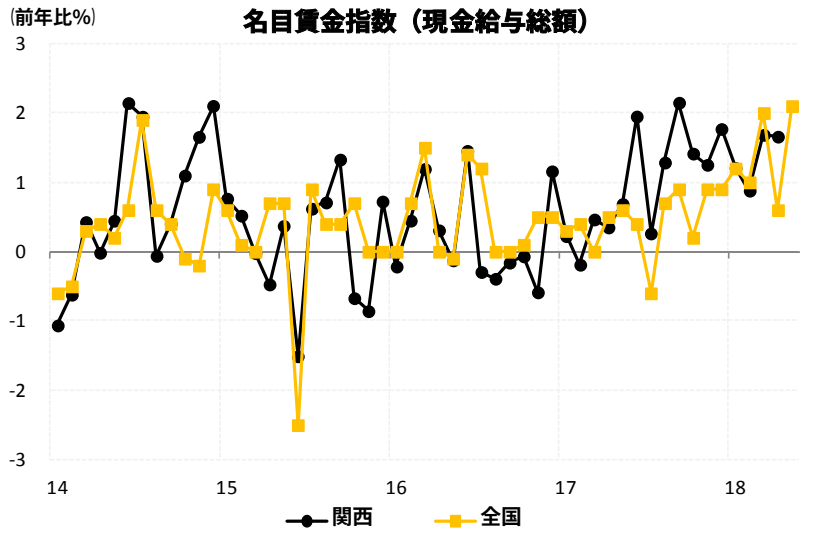
○5月の関西の**有効求人倍率**は1.56倍と前月と同水準となった。**有効求人数**は前月比＋0.1%、有効求職者数は同＋0.2%と共に小幅増加した。有効求人倍率に先行する**新規求人倍率**は2.37倍と前月からほぼ横ばいとなった。新規求人数は前月比－4.6%、新規求職申込件数は同－3.6%と共に減少した。



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

４．賃金　～緩やかに持ち直している　（先行き：緩やかに持ち直し）

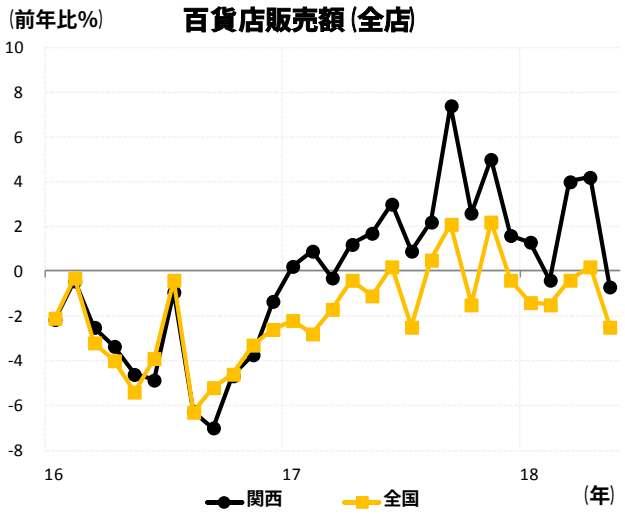
○3月の関西の**名目賃金指数**（**現金給与総額**：MURC試算）は前年比＋1.7%と13ヶ月連続で増加した。
4月は、未公表の滋賀を除くベースで同＋1.7%となっている。



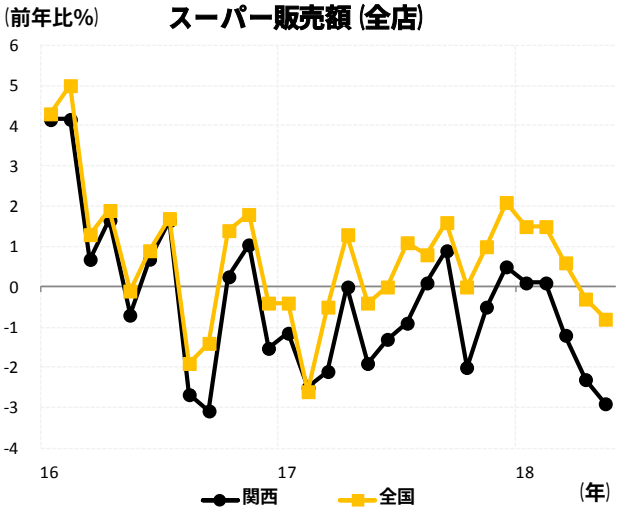
（注）関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算　（年、月次）
（出所）厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

５．個人消費　～持ち直しの動きが見られる　（先行き：緩やかに持ち直し）

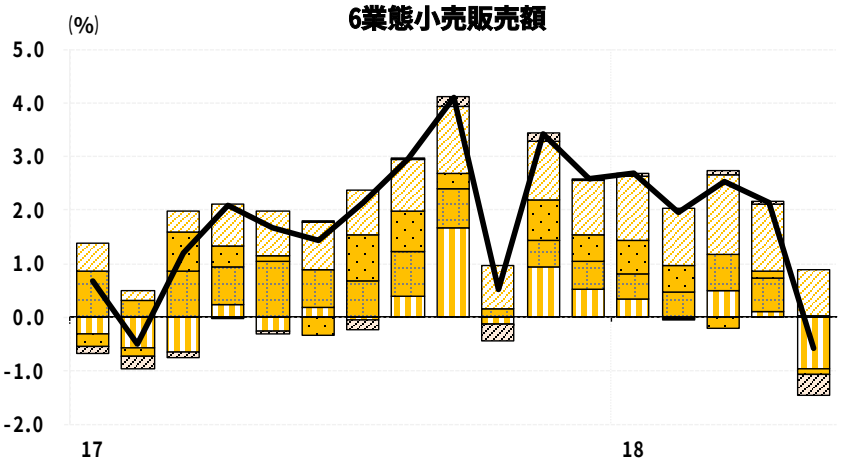
○5月の関西の**百貨店販売額（全店）**は、前年比－0.7%と3ヶ月ぶりに減少した。前年に比べ土曜日が1日少なかったことや、4月の高温と5月の気温低下で夏物需要が前倒しとなったことが響いた。**スーパー販売額（全店）**は全店でも同－2.9%と3ヶ月連続で減少した。また、**商業動態統計調査６業態の販売額**の合計は、同－0.5%となった。



（出所）経済産業省「商業動態統計」

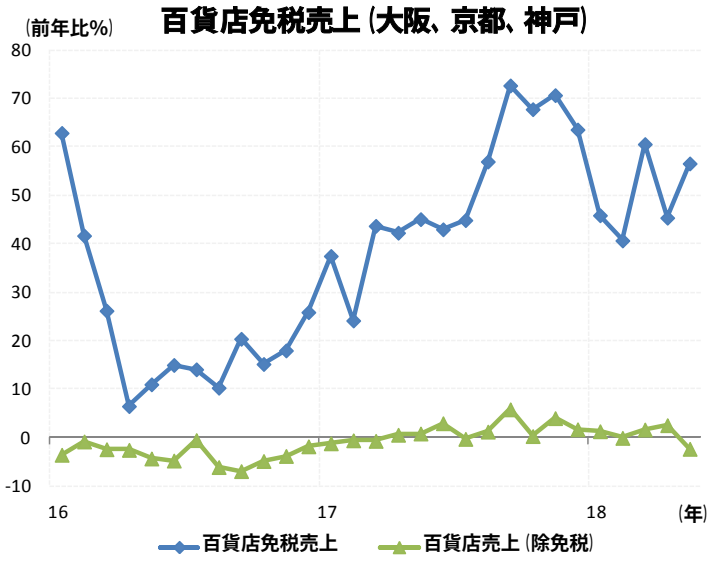


（出所）経済産業省「商業動態統計」



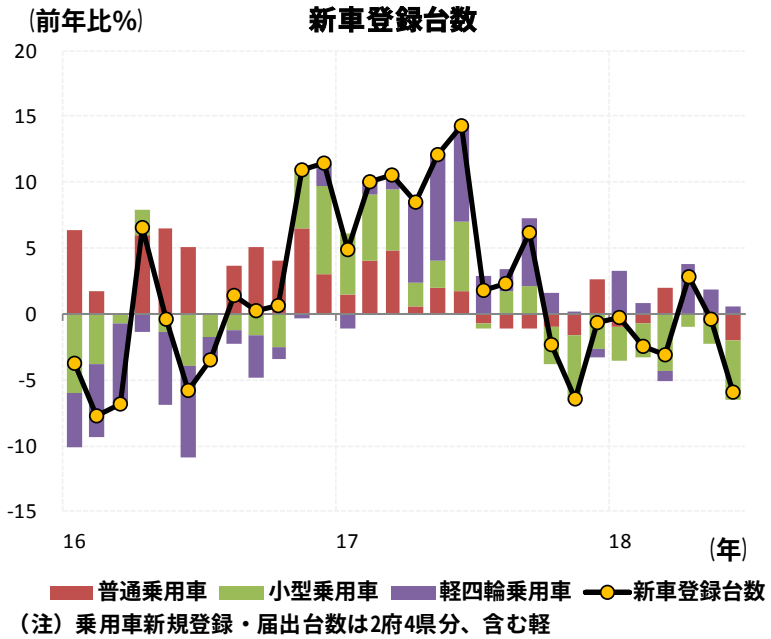
（出所）経済産業省「商業動態統計」

○５月の**百貨店免税売上**（大阪、京都、神戸）は、前年比＋56.6%と大幅な増加が続いている。百貨店売上から免税店分を除いた国内向け売上（MURC試算）は、同－2.3%と3ヶ月ぶりに減少した。



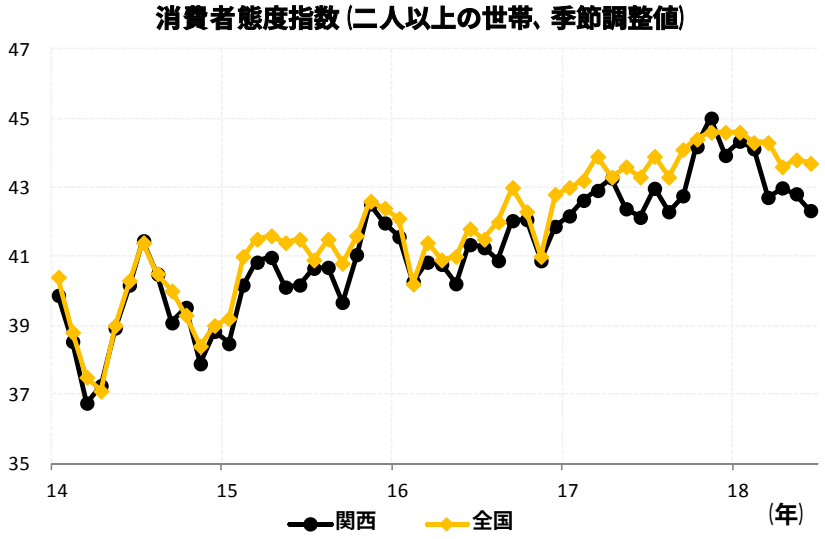
（注）百貨店売上（除免税）はMURCの試算
（出所）日本銀行大阪支店「百貨店免税売上（関西地域）」

○6月の関西の**新車登録台数（乗用車、含む軽）**は前年比－5.9%と2ヶ月連続で減少した。軽自動車（同＋1.9%）は3ヶ月連続で増加したが、普通車（同－5.3%）が3ヶ月連続、小型車（同－14.3%）は9ヶ月連続で減少した。



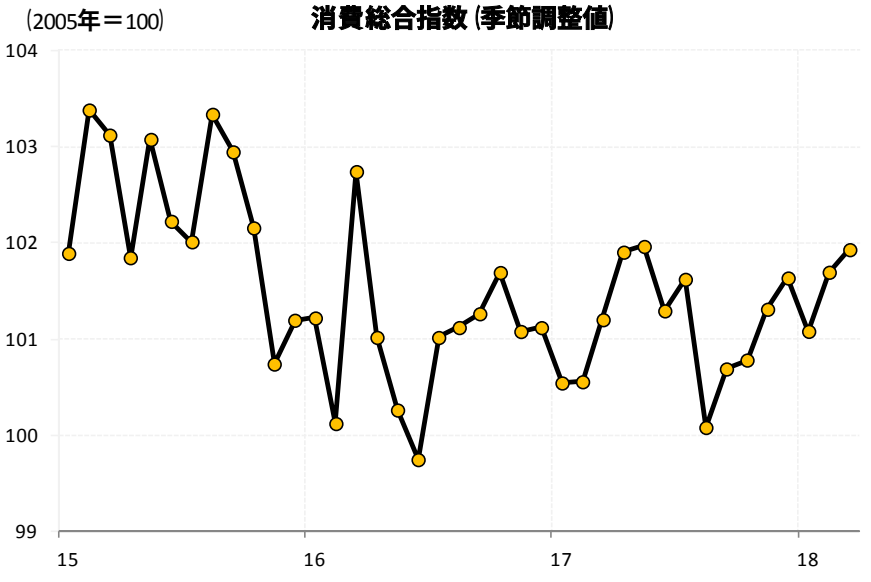
（注）乗用車新規登録・届出台数は2府4県分、含む軽
（出所）日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

○消費者マインドを表す**消費者態度指数**（季節調整値：MURC試算）は、昨年12月をピークに弱い動きが続いている。



（注）関西の季節調整値はMURCの試算値
（出所）内閣府「消費動向調査」

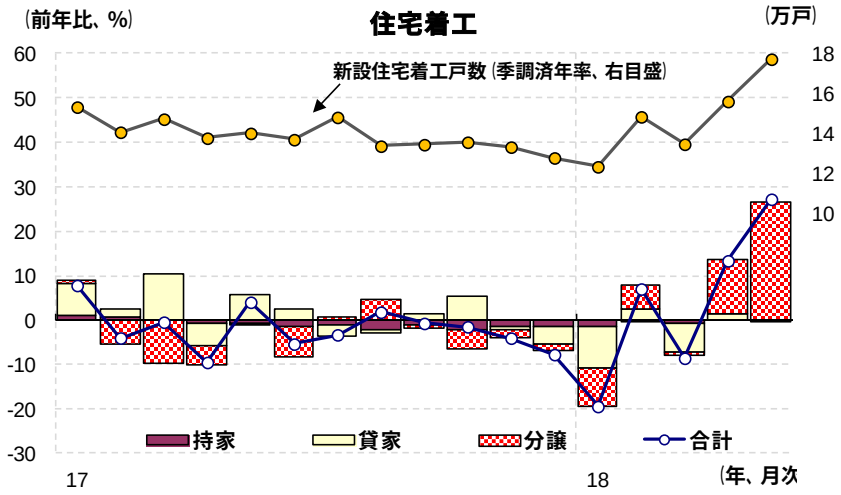
○内閣府が5月に公表した**地域別消費総合指数（直近は18年3月）**によると、関西のサービス消費を含む個人消費は、2017年9月以降、緩やかながら持ち直しの動きがみられる。



（出所）内閣府「地域別支出総合指数」

６．住宅投資　～一時的に増加している　（先行き：弱含み）

○5月の関西の**住宅着工戸数**は、季調済年率（MURC試算）で17.7万戸と2ヶ月連続で増加した。また、原数値の前年比では＋27.2%の14,410戸と2ヶ月連続で増加した。貸家が2ヶ月ぶりに減少したが、持家が2ヶ月ぶりに、分譲が2ヶ月連続で増加した。分譲の大幅増は、マンションの着工増に負うところが大きい。



（注）新設住宅着工戸数の季節調整は当社にて実施。
（出所）国土交通省「建築着工統計」

○内閣府が5月に公表した**地域別民間住宅総合指数（直近は18年3月）**によると、関西の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、15年半ば以降は上昇基調に転じたが、16年後半から弱含んでいる。

（出所）内閣府「地域別支出総合指数」

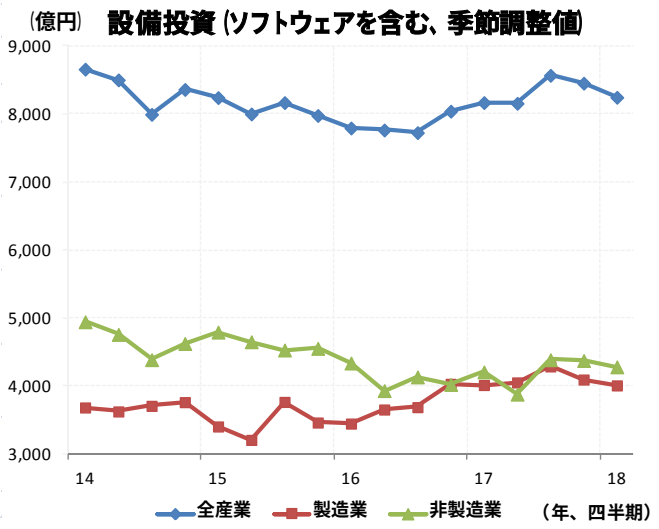
7．設備投資　～持ち直している　（先行き：持ち直し）

○**法人企業統計**によると2018年1～3月期の関西の大企業の**設備投資**（ソフトウェアを含む）は前年同期比＋0.9%と6四半期連続で増加した。一方、季節調整値（MURC試算）の動きを見ると、このところ弱含みとなっている。

設備投資前年比　(%)

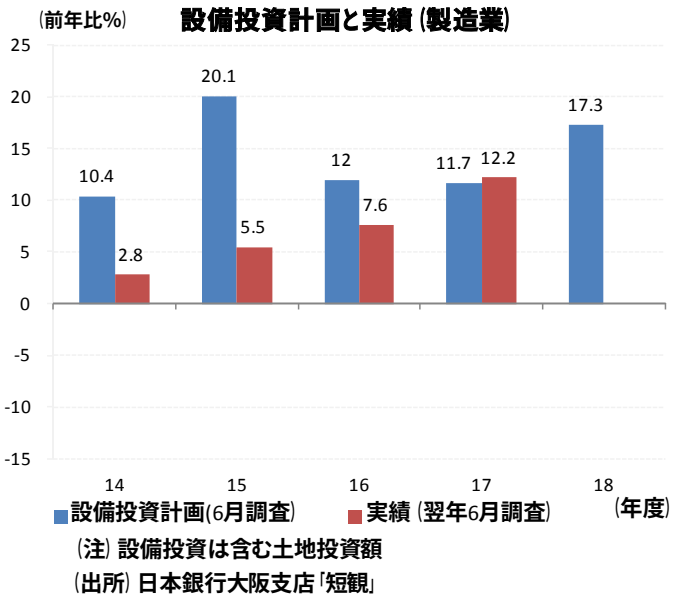
期	関西			全国		
	全産業	製造業	非製造業	全産業	製造業	非製造業
17/1-3	4.8	15.4	-2.3	4.5	1.0	6.3
17/4-6	4.2	10.8	-2.3	1.5	-7.6	6.9
17/7-9	11.3	16.5	6.0	4.2	1.4	5.9
17/10-12	5.3	2.1	8.8	4.3	6.5	3.0
18/1-3	0.9	-0.7	2.1	3.4	2.8	3.6

（出所）財務省「法人企業統計調査」

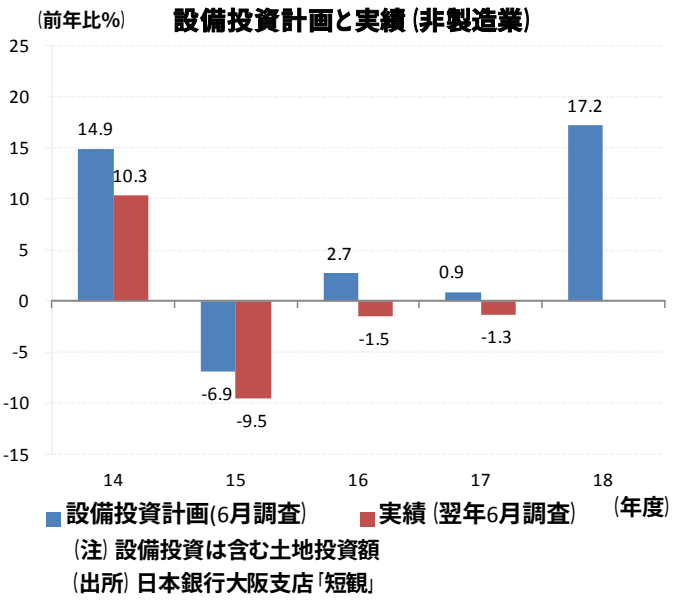


（注）季調はMURC
（出所）財務省「法人企業統計調査」

○**日銀短観6月調査**によると、関西の17年度の**設備投資**は、全産業で前年比＋4.3%（3月調査同＋9.6%）と増加した。内訳を見ると、非製造業は同－1.3%（同＋6.1%）と減少したが、製造業は同＋12.2%（同＋14.4%）と増加した。18年度については、全産業で同＋17.2%、製造業で同＋17.3%、非製造業で同＋17.2%と計画されている。



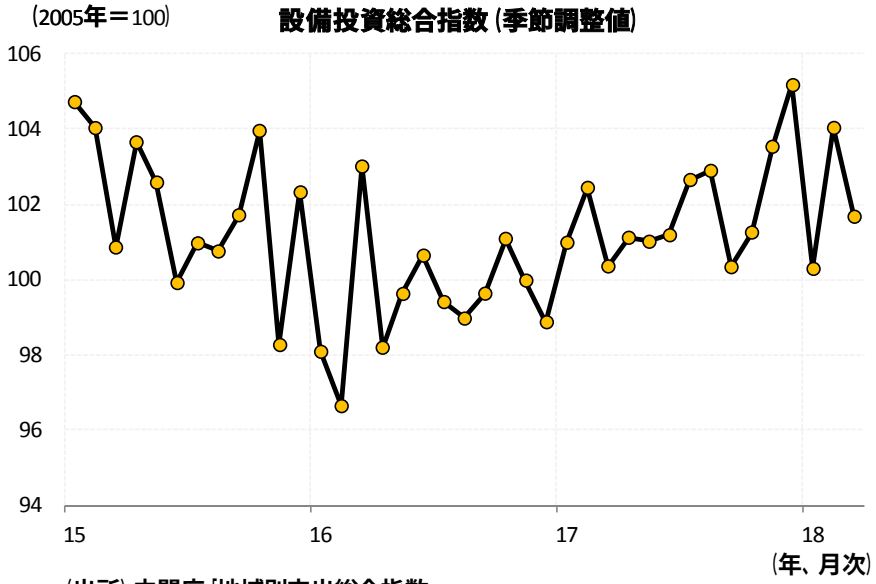
（注）設備投資は含む土地投資額
（出所）日本銀行大阪支店「短観」



（注）設備投資は含む土地投資額
（出所）日本銀行大阪支店「短観」

（お問い合わせ）調査部　TEL：03-6733-1070　E-mail：chosa-report@murc.jp

○内閣府が5月に公表した**地域別民間企業設備投資総合指数（直近は18年3月）**によると、関西の民間企業設備投資は、2017年以降、均して見ると緩やかな持ち直し基調で推移している。



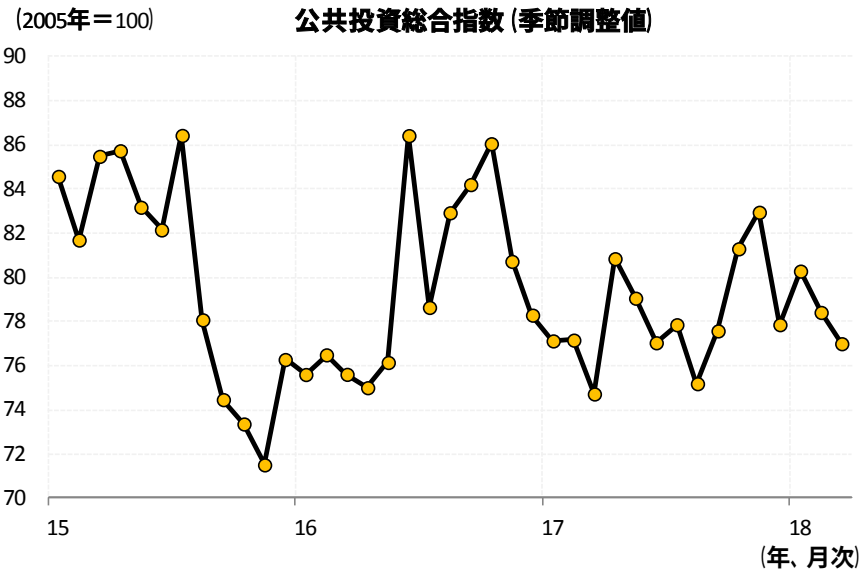
（出所）内閣府「地域別支出総合指数」

８．公共投資　～横ばい圏で推移している　（先行き：横ばい圏）

○6月の関西の**公共工事請負額（年度累計額）**は、前年比－1.9%と2ヶ月連続で減少している。一方、6月単月では前年比＋9.9%の1,345億円と2ヶ月ぶりに増加した。関西の公共投資は、均して見ると横ばい圏で推移している。

（出所）北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)

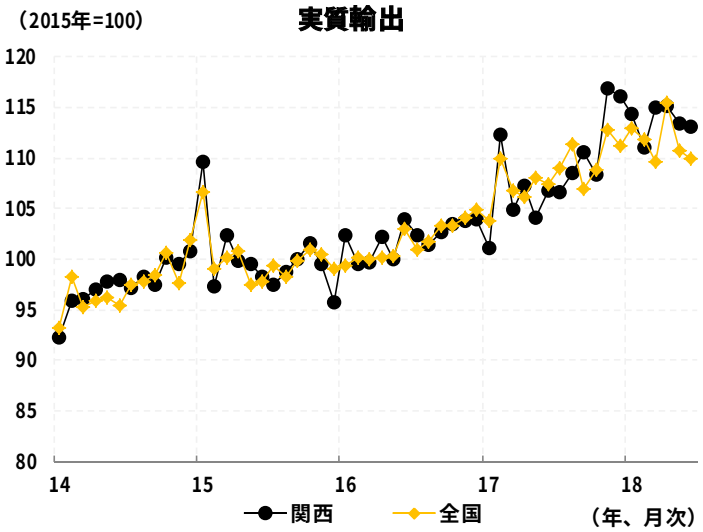
○内閣府が5月に公表した**地域別公共投資総合指数（直近は18年3月）**によると、関西の工事進捗ベースでの公共投資は、17年度に入って以降、低水準で概ね横ばい圏で推移している。



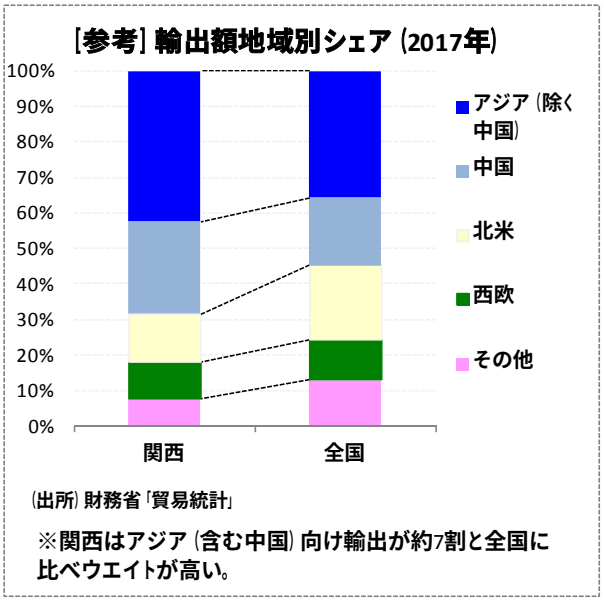
（出所）内閣府「地域別支出総合指数」

９．輸出入　～輸出は増加基調、輸入は横ばい（先行き：輸出は増加基調、輸入は横ばい）

○6月の関西の**実質輸出**は前月比－1.3%と2ヶ月連続で小幅減少したが、均して見ると増加基調で推移している。



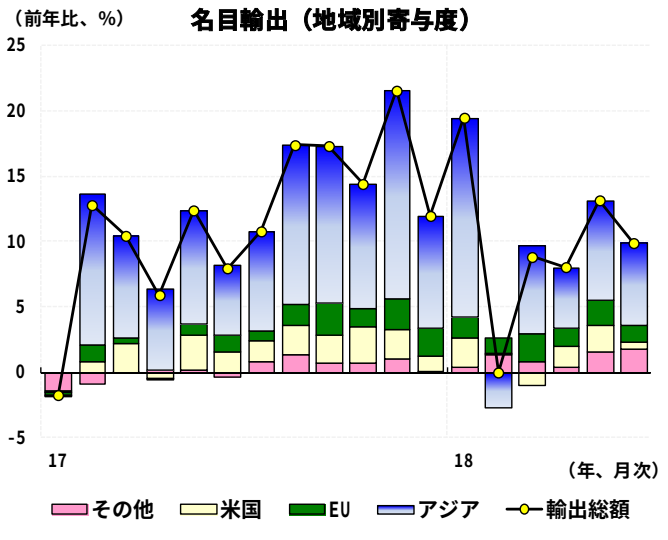
（出所）日本銀行大阪支店「実質輸出入」



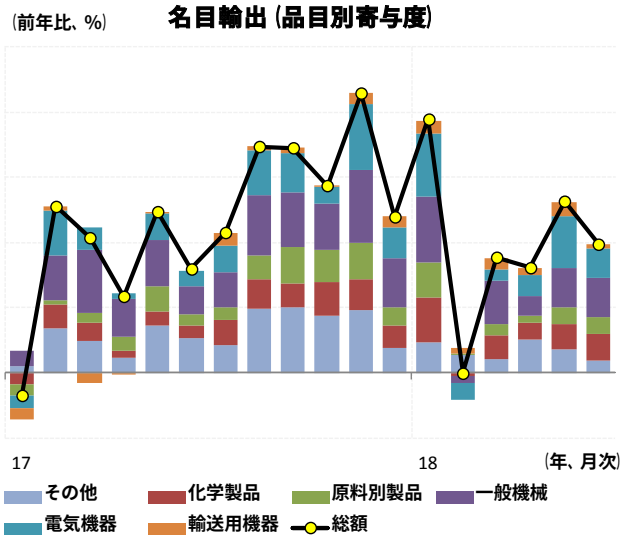
（出所）財務省「貿易統計」

※関西はアジア（含む中国）向け輸出が約7割と全国に比べウエイトが高い。

○6月の**名目輸出額**は前年比＋9.9%と4ヶ月連続で増加した。地域別では、米国は3ヶ月連続、ＥＵは14ヶ月連続、アジアは4ヶ月連続で増加した。品目別にみると、科学光学機器（同－12.8%）、などが減少したが、半導体等電子部品（同＋15.0%）、原動機（同＋54.9%）などが増加した。

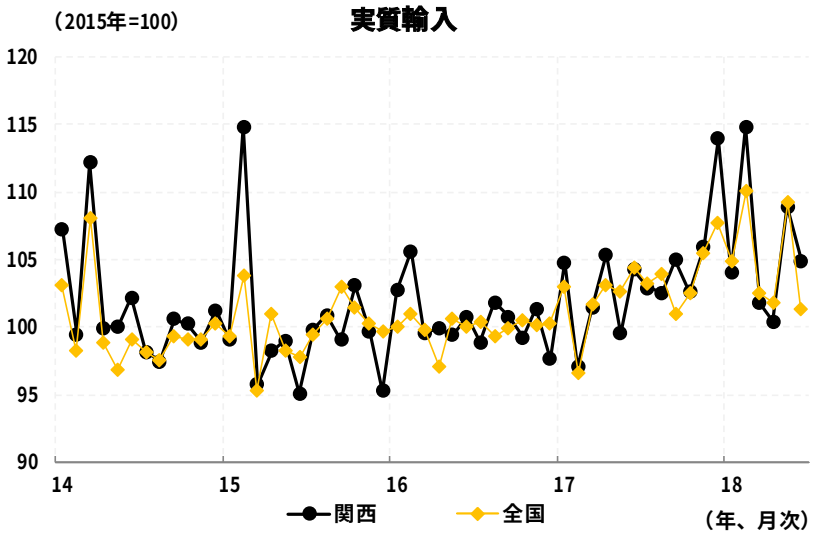


（出所）大阪税関「近畿圏貿易概況」



（出所）大阪税関「近畿圏貿易概況」

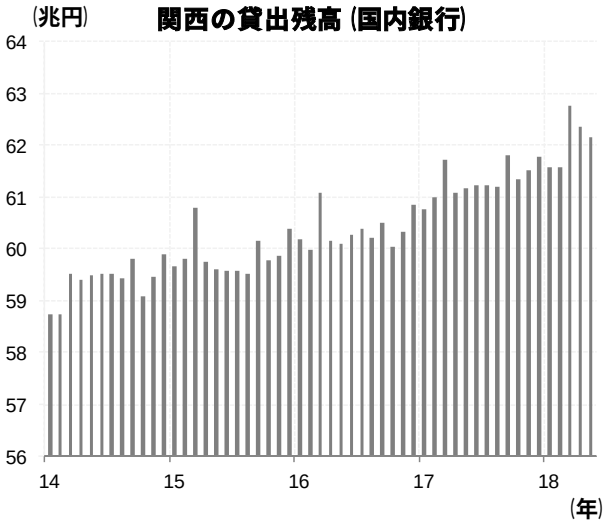
○6月の関西の**実質輸入**は前月比－3.7%と2ヶ月ぶりに減少したが、均して見ると横ばいとなっている。



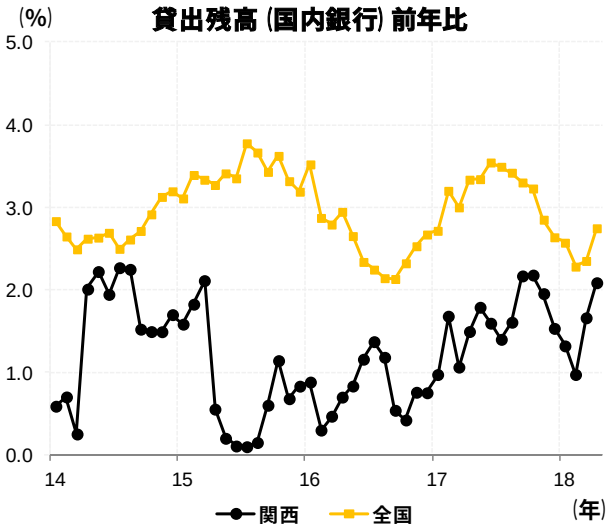
（出所）日本銀行大阪支店「実質輸出入」

10．貸出　～貸出は増加

○関西の5月の**貸出残高**（国内銀行ベース）は、同＋1.6%の62.2兆円となった。日銀大阪支店では「企業向けや住宅ローンの増加などを背景に」貸出が増加しているとみている。



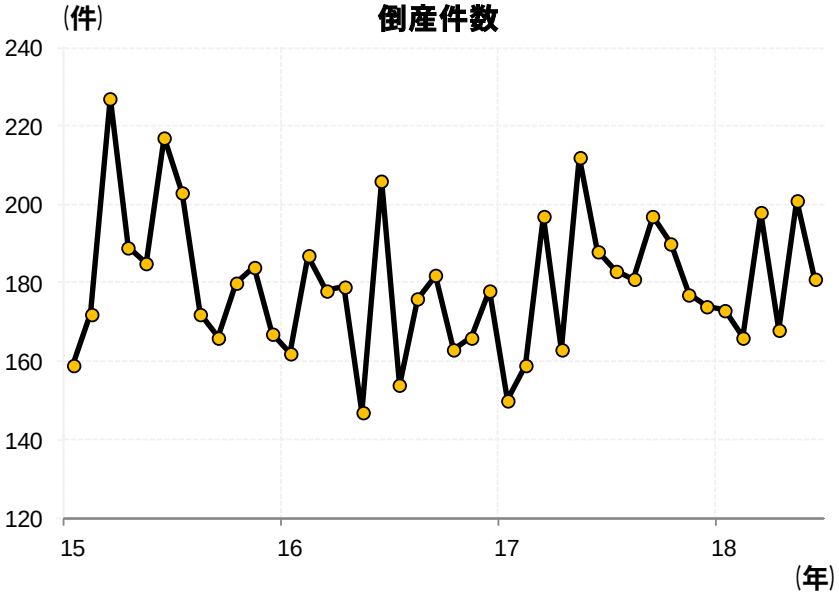
（出所）日本銀行



（出所）日本銀行

11．倒産　～倒産件数は減少

○６月の関西の**倒産件数**は、前年比－3.7%の181件（前年同月188件）と2ヶ月連続で減少した。一方、倒産企業の負債総額は同＋50.6%の248億円と、2ヶ月ぶりに増加した。



（出所）東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

－ ご利用に際して －

■ 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

■ また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。

■ 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。

■ 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ＆コンサルティングと明記してください。

■ 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

（お問い合わせ）調査部　TEL：03-6733-1070　E-mail：chosa-report@murc.jp